

学校だより たかみね

平成26年12月10日発行
愛川町立高峰小学校
愛川町三増767番地
新責任者 小島一浩(校長)
電話 046-281-0389
FAX 046-281-6151

学校教育目標
ともに学び ひびきあおう
～うごかそう ころとからだ～

12月の児童数 199人(男子109人 女子90人)

12月

大菊作りを通して

学校長 小島 一浩

私は、はじめ技術科の教師として、中学校に赴任しました。まず、最初に頭を悩ませたのが栽培の授業でした。栽培に関しては、指導するほどの知識も経験もありませんでした。そこで、教科書に栽培の仕方が詳しく載っていた大菊作りをしようと思い、地域で大菊作りを行っていた私の中学時代の恩師に色々相談をしました。恩師には、「中学生には、大菊作りは難しいよ。」と言われ、花壇で小菊を育てるようにと小菊をいただいてきました。学校では、小菊の栽培を行い、家で大菊の三本仕立てに挑戦しながら、試行錯誤を繰り返す日々が続きました。それから数年後、勤務校の校長先生から、「地域で、大菊作りの説明会があるから行きなさい。」と言われ、そこで、大菊作りに関する1年間の作業内容や苦労話を聞き、講師の先生から、数多くの苗をいただくことができました。そのことがきっかけで、学校での大菊作りの授業が始まりました。当時の教務の先生が、大菊作りの経験がありとても心強い存在でした。その先生から大菊作りの様々なことを学び、一人一鉢の大菊の三本仕立てに取り組むようになりました。

大菊の三本仕立ては、5月中頃の挿し芽から色々な作業を行い、10月下旬から11月に開花を迎えます。ところが、生育期間中の夏休みの水やりや台風対策をどうするかが、一番の問題となりました。そこで、夏休みの水やり当番、台風対策委員を決め、夏休みの時の水やり、台風の時の校舎内への移動を、生徒たちとともに行いました。また、夏休みの水やりがとても大変なので、2学期から始められる福助作りを行う時もありました。生徒たちは(私もですが)、苦労をしながら育てた大菊の大輪の開花を迎えた時には、何ものにも代え難い喜びや感動の気持ちを味わいました。この気持ちが忘れられず、大菊作りも30年が経とうとしています。

大菊作りは、毎日面倒を見ることが大切です。あまり手をかけすぎてもいけないし、また、手をかけないのもいけません。この加減がとても難しく、このことは、私たちの子どもへの指導と相通じるものがあると思いました。

これからも今までのことを生かしながら、大菊作りを続けていこうと思っています。



12月の行事予定

11日(木) 4年プラネタリウム見学・6年親子レク
12日(金) ばれっとさんイベント
15日(月) ノーテレビノーゲームデー・1年折り紙教室
17日(水) 5年親子レク13:30
18日(木) PTAあいさつ運動(～24日)
19日(金) 給食終了
22日(月) 3・4年もちつき大会 下校(全) 12:20
24日(水) 終業式 下校(全) 11:35
25日(木) 冬季休業(～7日)

1月の予定

8日(木) 3学期始業式 給食費引落とし日
Pあいさつ運動(～14日) 下校(全) 11:20
9日(金) 下校指導 下校(全) 11:40
11日(日) 町一周駅伝(本校中継所)・成人式
13日(火) 給食開始・3年と4年書初め大会 委員会活動
14日(水) 5年・6年書き初め大会 職場体験(16日まで)



第2回学校評議員会報告

11月12日(水)に行われた第2回学校評議員会の報告です。

<出席者> (敬称略)

評議員：平本幸一 沼田晴好 渥美敏子 高橋誠

学校：校長 教頭 弥吉 田湯

- 1 授業参観(4校時、全クラス公開)
- 2 会食(学校給食を食べていただきました)
- 3 報告(行事関係・学習関係・児童指導関係)

- (1) 学習指導について～校内研究および学習指導の取組
- (2) 学力状況調査～全体的にはよい取り組みで今後に生かしていきたいと思えます。
- (3) 児童指導について～児童の様子、いいとこメガネの取組、全職員で情報共有する機会をもっていること等

<おもな協議内容>

- 落ち着いて学習している姿が見られました。
- 全員前向きでの授業だけでなく、コの字型での授業など、指導の工夫を感じました。
- いいとこメガネの取組は全員について人の良さを見つける、という点でいいですね。いろいろな面で活用できますね。
- これからも保護者の方々への子育て相談に真摯に耳を傾けていきましょう。
- あいさつと返事ができる子どもたちを地域としても目指していきたいですね。幼稚園でも目指していますが、幼小中と意識して取り組んでいくといいですね。



満員御礼!「みねっ子相撲大会～冬場所～」開催



11月25日(火)の「なかよタイム」で、みねっ子相撲秋場所が開催されました。夏場所と同じく全員参加の紅白対抗戦でした。勝ち負けは、おいといて…。

改めて思いました。これは、高峰小ならではの、ほのぼのとしたいいイベントです。よかった点をいくつか。

- ・全員が参加する大会であること。
- ・身体一つでぶつかっていく正々堂々真剣勝負であること。
- ・どの一番も腰を落とした立ち合いが見られたこと。
- ・これまでと比べてもあきらめない力相撲が多かったこと。
- ・観客(子どもたち)の見る眼と応援が整然としていたこと。
- ・毎度、異学年交流のよい機会となっていること。
- ・年間2場所実施されていること。

ちなみに、たてわり班を母体としたチームによって、運動会紅白戦、みねっ子相撲対抗戦、長縄跳び大会を実施しています。

みねっ子マラソン大会 12/4(木)



マラソン大会が行われました。1、2年女子→1、2年男子→3、4年女子→3、4年男子→5、6年女子→5、6年男子の順でスタート。応援が多いこともあって、同じペースで走ることはむずかしかったようですが、参加児童は、全員決められた距離を走り切ることができました。今後、寒くなっていますが、これをきっかけにして、たくさん外遊びをしてもらいたいと思います。なわとび板もさっそく運動場に出しています。走ることもいいことですが、今度はなわとびの技術を高めつつ、持久力をつけることもいいのではないのでしょうか。